

# 4・26アピール

地球規模の放射能汚染が続くことに反対する  
芸術的、知的、科学的で民衆的な蜂起のために

## 前文

この呼びかけは、政党、組合、圧力団体、あるいは集団の発現としてではなく、16年間その演劇活動の半分を芸術と放射能汚染との関わりに捧げてきたフランスのある劇団（Brut de Beton Production）によって発せられたものである。

**放射能汚染された地球の未来は、ひとつの可能性**なのではなく、私たちがこの汚染の拡散を中断させる以外になすすべがないという現実そのものなのである。もう一つの選択は、この決断を継続することであり、統計的に予測されている新しい事故に私たちが備えることである。



1986年4月26日、チェルノブイリ、2011年3月11日の福島以来、原子力による二大惨事は住民を不安に陥れ、歴史に刻まれた。

こうした惨事は、予測される新たな惨事と同様、事故の始まりの日があっても終わりの日はないという特殊性を持っている。「半減期」と呼ばれる数百年、数千年の間、放射性核種は大気と海と土壤にばらまかれ続けるのである。事情に通じた住民たちは皆、この汚染された未来から脱出したいのだが、どうしていいかわからない、という仮説から私たちは出発しよう。実際、だれも今日まで、このゆっくりと進む地球全体の放射能汚染を止められずにいるのだ。

**時間が経過すればするほど**、私たちは紛うことなく「核の冬」に向かって滑り落ちていくという印象をぬぐい去ることができない。70年間、どのような民主的決定機関も、行政機関も、どのような裁判所も、どのような大学も、原子カムラの住民たちのプロメテウスの狂気を止めることができなかった。

2006年4月26日チェルノブイリにおける

『チェルノブイリの対角線』

彼らを揺るがすものは何もない。大惨事でさえも、核戦争も、巨額の財政的損失も、終わりのない原発建設現場も、積み重なる核廃棄物の山も、彼らの断固とした声明に対立する科学的な研究さえも。

ではどうすればいいのだろうか。

# アピール



チェルノブイリ近くの日常風景（写真：ヴェロニク・ブートルー）

今日から私たち（芸術家、ジャーナリスト、教職者、写真家、音楽家、俳優、司書、大道芸人、科学者、ダンサー、研究者、ドキュメンタリー監督、曲芸師、詩人、劇場経営者、映画館、フェスティバルの監督、選ばれし者そして活動家や関係市民たち）は、汚染された未来に対して蜂起を促進させるために働き始める。講義や討論、パフォーマンス、会議、展示会、フィルム上映、ダンス、カーニバルを創作し実行し、受け入れる。

**2016年3月11日と4月26日の間の7週間**は、テキストが舞台上で読み上げられ、他の場所で他の文章が同時に読まれるだけでなく、映画上映、写真展示、討論会やセミナー等が大学の講義会場や学校、図書館、市民ホール、空き地等で催される。

**放射能汚染されたこの未来に決着をつけるために、芸術家、学識者、科学者たちの蜂起が市民を説得せんことを。そして無数のショー、本、写真、絵画、バレエ、コンサート、報道、セミナー、カーニバル、詩や展示会、リサーチが充実した展開を見せん事を！**

追伸：このアピールは、今日より、全ての人々が考え、読み、交流し、資金面および討議・展示場獲得のためにサポートが得られるように放たれたものである。劇団『Brut de Beton Production』は、このアピールの調整の役を荷なう。

連絡先：[brut-de-beton@orange.fr](mailto:brut-de-beton@orange.fr) Bruno Boussagol 気付

**Téléphone** (仏語か英語): **0033 (0) 4 63 31 50 12** c/o André Larivière

**URL:** [www.brut-de-beton.net](http://www.brut-de-beton.net)

私はアピールに署名します:

氏名.....名前.....

グループまたは団体名（もしあるなら）: .....

メール.....電話番号.....

私は次のプロジェクトとともに参加します .....

(イベントの詳細):

- 日時 (2016年3月11日から4月26日まで): .....

- 場所 (国, 市, 広場ないしは会場).....

- このイベントに関する担当者の名前と連絡先 (mail & tel) :.....